

「毎日修行、一生修行」

安龍寺 齋藤隆光

令和元年十二月十六日 加茂法話会

「参学の人、且く半途にして始めて得たり、全途にして辞すること莫れ。」

(訳)参学の人よ、学道という道は、半分の道のりまで来て、はじめてやっと(真実の道とは何か)分かりはじめるものであり、また、すべて学び終えたと思っても、それで満足して決して辞めてしまっではいけない道である。

『学道用心集』(第八) 角田泰隆 訳注

仏道修行は坐禅を中心とした日常生活の全て。

坐禅は身を調え、呼吸を調え、そして心を調える。

日常生活でも坐禅の気持ちで自分と周りの環境を調べていくことが大切な修行。

日々、自分を戒め、満足せずに修行を続けていくこと。

「参禅学道は、一生の大事なり」 『学道用心集』(第六)